

不明である。

「崔氏」「必効」「延年」「近効」「姜君」「姜生」の各方面から「医心方」への引用は全くなく、「日本国見在書目録」にもないところからみると、康頼はこれらの文献を見ていなかったものと思われる。

「医心方」の引用文にはすべて出典が明記されているが、このことは宋代の改訂を経ていないという事実とともに研究者にとってはかり知れない価値を持つものである。

また「医心方」口歯部門における文献の引用回数では「外台」にやや及ばないが、文献数では「外台」より11も多い。これによっても、当時、文化の面で中国の後塵を拝していた我国の医師・康頼のなみなみならぬ努力と自負がしのばれるのである。

4) 「G.V. Black の分類」か？

日本歯科大学新潟歯学部 中原 泉

窩洞は、歯科保存学の基本である。その窩洞の分類には現在、いわゆる「Black の分類」が広く用いられている。保存学の日米の成書には、Black's Classification として、次のように記載されている（文献名は略）。

「下記は、Dr. G.V. Balck によって唱えられた窩洞の分類である。」

「窩洞の分類のための別の方法は、約100年前に Dr. G.V. Black によって設計されたものである。」

「G. V. Black は技術的特性に基づいて、5つの組に窩洞を分類した。」

「G.V. Balck は歯面における齲蝕発生の頻度を基盤として、窩洞を5種に分類した。」

ところが、これらの解説には、史實的にみて明らかに誤謬があることを指摘せざるをえない。語弊があれば、正確さを欠くと言いなおしてもよい。ここで筆者が拘泥するのは、文中の“G. V. Black によって……”，“G.V. Black は……”という個所である。

そこで、このいわゆる「Black の分類」をめぐる史実について報告する。

5) 仏典（仏教医学）にみえる齲齒とその療法

大阪市 杉本 茂春

1

大正新脩大藏經は2920編の仏教典を収録した大冊85巻、わが国仏教典の集大成といえる。

なかでも、『一切經音義』100巻は大正藏54巻に収録され、宋、慧琳の撰になり、慧琳音義として、經典中の語彙検索に便利である。これを精査して「齲」8字を得た。

齒齲	54-461- c	方廣大莊嚴經
齒齲	54-593- b	陀羅尼雜集
齲齒	54-707- a	根本說一切有部毘奈耶
虫齲	54-787- c	出曜經
呪齲	54-822- a	大唐內典錄
齲齒	54-825- b	開元積教錄
齲齒	54-850- b	古今積教圖記
齒齲	54-873- c	集沙門不拜議

2

大正新脩大藏經21, No. 1327, 仏說呪齒經, 東晉竺曇無蘭訳 21-491- b

『南無仏南無法南無比丘僧南無舍利弗大目乾連比丘, 南無覺意, 名聞迦北方健陀摩訶衍山, 彼有虫王名差吼無, 在某牙齒中止, 今當遣使者無敢食某牙, 及牙根中牙根中牙邊虫, 不即下器中頭破作七分如鳩羅勤蟻, 梵天勸是呪南無仏, 令我所呪皆從如願』

訳者が明記されているところから、もともとインド古来の伝承医学または民俗風習に由来する形式を写したものと思われる。

大藏經21, 密教部4には

1323	除一切疾病陀羅尼經	唐 不空訳
1324	能淨一切眼疾病陀羅尼經	全
1325	療痔病經	唐 義淨訳
1326	呪時氣病經	
1327	呪齒經	東晉曇無蘭 訳
1328	呪目經	
1329	呪小兒經	
1330	囉嚩拏說救療小兒疾病經	宋 法賢訳

等, 医学医療関係經典が含まれている。

3

また、大正新脩大藏經21には
1336 陀羅尼雜集 失訳 10巻がある
その巻5には

仏説止女人患血至困陀羅尼 1 首
仏説除産難陀羅尼 1 首
觀世音説除熱病邪不忤陀羅尼 1 首
仏説治瘡病陀羅尼
那羅延天説治瘡病陀羅尼 1 首
尼乾天説令人易産陀羅尼 1 首
呪卒得重病悶絶者陀羅尼 1 首

等、医療陀羅尼にまじって

呪齒痛陀羅尼 1 首 21-609- a

『南無仏南無法南無比丘僧、南無舎利弗兜樓摩訶
目連比丘、南無賢者覺意、名聞遍十方、北方捷陀
摩訶衍山、彼有虫名羞休無得、在其牙止、彼当遣
使者莫敢食其牙齒及牙根牙中牙辺虫不即下器中、
頭当破作七分、如如鳩羅勤繕、梵天勸助是呪南無
仏 令我所呪即從如願 淨水唵呪一遍 吐水器中
呪七遍止

4

また、陀羅尼雜集8には

呪疫病文 1 首

呪癰腫文 1 首

等にまじって、大神仙赤眼呪牙齒燈經 1 首
がある。(原文のまま)

大神仙赤眼呪牙齒燈經 21-626- b

『東北有山名曰香螭、彼中大人名曰赤眼甚可畏怖、
仙人患齒螭即自結此呪曲
呵陀拈比知呵陀既万泥呵陀既万泥宝伽梨呵陀毫提
呵陀勒提呵陀因頭那摩舎、薩婆檀陀炎那、悉波呵』

とあって、陣痛について、齒痛は人生三大痛苦
のひとつと言われてきた。医もまた呪術医、巫医
の域をでなかった時代から多くの呪齒痛陀羅尼を
生みだしてきたと考えられる。多くは、異訳本か
らの移入であろう。

5

呪齰齒呪 55-226- a

呪虫齒呪 55-226- a

呪牙痛呪 55-226- a

No. 2149 大唐内典録 1

齰齒呪經 55-358- a

No. 2151 古今訳經図紀 2

呪齒經・虫齒經・齰齒經 55-504- a

呪牙痛經・呪齒痛經 55-504- a

齰齒呪 55-509- b

No. 2154 開元釈教録 3

等、異本とりまぜて、齰齒痛に対する呪法を発見
することができた。

おそらく、古代インドの民俗風習として伝わる
呪法を漢訳した、東晋西域竺曇無蘭訳に端を発す
る異本であろう。

また、数多い異本類について、偽經の疑いを消
すことはできないけれども、それほど、古代から
齰齒痛苦に悩む人びとが多かったということでも
あろう。

6) 東京歯科医学院の学制・教授陣・

教科書等について

○長谷川正康

森山 徳長

石川 達也

高添 一郎

本学会第12回学術大会では、現東京歯科大学の
創立当時の10年間、すなわち高山歯科医学院の輪
廓につき報告した。今回は引き続き、高山院長の
禅譲を受けた血脇守之助が、校名を東京歯科医学
院と改めて明治33(1900)年1月に新発足し、同
40(1907)年、専門学校令により東京歯科医学専門
学校となるまでの7年半の歩みについて述べる。
〔校舎〕 33年2月1日神田小川町1番地東京顕微
鏡院の2階教室を夜間だけ借りて開講。同年9月
3日神田三崎町1丁目3番地大成中学校内に教室
を借り移転。

34年2月三崎町2丁目9番地に新築移転。同7
月増築。38年9月大講堂と技術実習室1棟完成。
39年4月技術実習室完成。

〔学制〕 修業年限2ケ年、学期を前・後期に分つ。
学期は4月1日より翌年3月31日とする。

前期入学者は、当分無試験で入学を許可。

医師開業前期試験及第者、歯科学説及第者およ